

講義名	中国語資格試験準備 A (GSP生用)			授業形態	
担当教員	関 梅	開講期・曜日・時限	前期 木曜日 4 時限		
		単位数	2	履修開始年次	2 年生

主題と概要

この科目は二次次GSP生を対象とします。
この授業では「日本中国語検定試験」4級の合格を目標としています。
「日本中国語検定試験」のランクは準4級から始まりますが、この授業ではワンランク上の4級レベルの内容を学習しながら、検定試験を受けるためのリスニングと筆記のトレーニングを進めていきます。
本格的に中国語検定4級の合格を目指す授業として指導を行うので、真剣に授業への取り組みをしてください。

到達目標

中国語検定試験4級に合格する目標を目指します。
4技能に関する到達目標
聞く：平易な日常会話の内容を聞いて分かるようになる
話す：自己紹介ができ、短い文の質問と答えができるようになる
読む：300字以内の平易な内容の中国語を理解することができるようになる
書く：基本文型を応用して、簡単な自己紹介文を書くことができるようになる

提出課題

毎回の授業では、トレーニングの状況を確認するため、トレーニングのプリントの提出をしてもらい、次回にフィードバックを行います。また、不定時に宿題のプリントも配布します。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

前回のトレーニングの結果を講評し、理解の不十分な文法項目を再度説明します。

評価の基準

本講義の評価基準は毎回の講義の受講態度と提出物、小テスト及び中間テストと期末試験の成績により総合的に評価をすることを基準とします。
具体的な割合は：
平常点（授業中の受講態度、課題の提出、小テスト）20％
中間テスト30％、期末試験50％
原則として授業に5回の欠席以上の場合は失格とします。
以上の記載については初回の講義の際に、教室で詳しい説明を行います。

履修にあたっての注意・助言他

中国語4級検定試験に合格するには日々の努力は欠かせないので、音読の練習や単語の暗記と文法の復習をする必要があります。

教科書

.教科書を使用しない。

参考図書

.なし。

その他

検定問題の過去問題及びプリント教材

授業計画

- 1.Live/授業の進行についての説明と実力測定&検定試験の説明
- 2.Live/ワークシート配布：文法項目・筆記、リスニングトレーニング
- 3.Live/ワークシート配布：文法項目・筆記、リスニングトレーニング
- 4.Live/ワークシート配布：模擬試験による実力測定・解説
- 5.Live/ワークシート配布：文法項目・筆記、リスニングトレーニング
- 6.Live/ワークシート配布：文法項目・筆記、リスニングトレーニング
- 7.Live/ワークシート配布：模擬試験による実力測定・解説
- 8.Live/ワークシート配布：本講義の前半復習
- 9.Live/ワークシート配布：文法項目・筆記、リスニングトレーニング
- 10.Live/ワークシート配布：文法項目・筆記、リスニングトレーニング
- 11.Live/ワークシート配布：模擬試験による実力測定・解説
- 12.Live/ワークシート配布：文法項目・筆記、リスニングトレーニング
- 13.Live/ワークシート配布：文法項目・筆記、リスニングトレーニング
- 14.Live/ワークシート配布：文法項目・筆記、リスニングトレーニング
- 15.Live/ワークシート配布：模擬試験による実力測定・解説

授業形態（アクティブ・ラーニング）

<input type="radio"/> A：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
<input type="radio"/> W：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
<input type="radio"/> O：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
<input type="radio"/> K：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

本講義は中国語検定4級を目指すため、授業外での努力は欠かせません。
その内容として：
1. 毎回の授業の後に、授業に行ったトレーニング問題を復習する。
2. Moodleにアップした過去問題一部分の音声を聞き取る。
3. 次回の過去問題を事前に回答しておく。
4. 中国語検定4級レベルの単語の発音、意味、書き方を確認し、覚える。
以上の勉強をするには、週に4時間以上の学習時間を確保する必要があります。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

外国語を用いて「人と円滑なコミュニケーションをとることができる」資質・能力を育み、言語学部生に求められる「各業界の動向や問題点を理解するための基礎知識」、経済学部生に求められる「人間、社会に関するこれまでの学問的成実の基礎」、人間社会学部生に求められる「日常生活と文化といった現実社会の様々なテーマ」に習熟し「コミュニケーション能力」の育成を目指します。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

本講義では基本的にICT活用をし、グループ学習の形式で授業を進めていきます。
教室内備えているプロジェクターを使用し、音源はPadとコードレススピーカーを使用します。
文法説明や課題の答え合わせなどについてはすべてigpadやプロジェクターで行います。
また、Quizlet、Kahootもigpadやプロジェクターを利用します。

実務経験の有無及び活用

備考

受講者の習得状況に応じて授業の進度を調整します。